## 人気会計士が語る、小さな会社の経営“これだけ”（第19回）

# 会社で一番大切なのは「社員とその家族」を守ること

2020.05.01

顧問先2200社を抱える会計事務所を率いる公認会計士、古田土満氏が語る小さな企業の経営のコツ。その第19回は、会社の役割についてです。社員の幸せとお客さまの幸せを通して社会貢献をすることこそが会社の役割であると古田土氏は考えています。

古田土会計の34年の歴史の中で2度、事業が継続できなくなるのではと思ったことがあります。最初は、開業後5年目のことです。社員が定着しないので人材の育成に自信がなくなり、友人の会計事務所と合併することにしました。

私が営業、友人が人の管理、役割を分担することにしたのですが、うちの社員は現吉田専務以外全員が社交性のある友人の会計士のほうに付いてしまい、合併して6カ月後に解散しました。

2度目は、7年目に起こした交通事故です。社員が十数人の頃で、確定申告も終わり社員の慰労のために東京・秋川渓谷に花見がてらバーベキューに行ったときに、1台の車が事故を起こしました。車は社員が運転していました。乗っていた4人のうち、2人は当日がヤマですと医者に言われました。結局、命は助かったものの障害は残りました。

私と専務が事故の対応に追われ、4人が入院しているときに社員が辞めていきました。会社の将来に見切りをつけられたのでしょう。このとき、事故を理由に会社を潰してはいけないと心に誓いました。後に経営理念に「一生、あなたと家族を守る」と書きました。

会社で一番大切なのは「社員とその家族」、2番目は「お客様の社員とその家族」と言い続けています。そのためには急成長ではなく、安定成長することです。階段を一段、一段コツコツと上るような経営をしてきました。

借金をしない。
資産はお金で持つ。
株・不動産は持たない。
本業以外やらない。
凡人なので人の数倍働く。
個人でも質素な生活をする。

そして、前述した合併の失敗からも学びました。私の人格では、人を引っ張れません。そこで経営計画書を作成し、そこに記入した経営方針をトップが先頭に立って実践します。実践している「後ろ姿」を見せることによって、全社員が価値観を共有して、明るく、元気で、使命感に燃える職場をつくり、社員が安心して働ける会社にしようと心掛けています。

経営者の判断ミスが、会社を潰します。経営者は多くの失敗をしています。社員も失敗しますが、経営者の失敗に比べたら大したことはありません。社員の失敗に対して教育は必要ですが、寛大であるべきだと私は思っています。多くの人に迷惑をかけ、助けられて古田土会計の今があります。

会計事務所として果たすべき役割は何かと考えたとき、それは社員の幸せとお客さまの幸せを通して社会貢献をすることで

はないでしょうか。

なぜ、会計事務所甲子園をやろうと思ったか… 続きを読む